

中部ゴルフ連盟
[HOME](#)
[中部アマチュア](#)
[中部ミッドアマチュア](#)
[中部女子アマチュア](#)
[中部シニア](#)
[中部オープン](#)
[中部グランドシニア](#)
[中部ミッドシニア](#)
[中部女子シニア／
中部女子グランドシニア](#)
[中部インタークラブ](#)
[佐々部杯](#)
[中部アンターハンディ
キャップ](#)
[中部小学生](#)
[中部ジュニア](#)
[中部学生](#)
[中部シニアオープン](#)
過去の競技
[2019年](#)
[2018年](#)
[2017年](#)
[2016年](#)
[2015年](#)
競技情報
中部アマチュア（4 R成績表）・記事

平成30年度（第51回）中部アマチュアゴルフ選手権競技

開催日／平成30年5月29日（火）・30日（水）・31日（木）・6月1日（金）

会場／岐阜関カントリー倶楽部（東コース）

天候／第1日：曇り 第2日：雨 第3日：雨 第4日：晴

[第4日成績表（PDF）](#)
通算8アンダーで日大2年生、桂川有人選手（美濃白川）が逃げ切り優勝


中部アマの最終日は昨日の悪天候から一転、青空の広がる好天に恵まれた。中部アマチュアゴルファーの頂点、そして、日本アマチュアの出場権を目指す戦いは、第3ラウンドまで通算7アンダーで首位をキープしていた日大2年生の**桂川有人選手（美濃白川GC）**が一度は後続に並ばれたが、最後は振り切り、通算8アンダーで堂々たる初優勝を飾った。

昨年開催された日本オープンと同様の難しいセッティングがなされた最終日だったが、優勝の桂川選手はスコアは4日間ともアンダーパーをマーク。2位の**大澤和也選手（グリーンヒル瑞浪GC・日大4年）**は通算6アンダー、3位の**今野大喜選手（恵那峡GC・日大4年）**は通算3アンダーと、上位3人が見事なアンダーパーでのホールアウトとなった。最終日にピンクのボロシャツで勝負するのが日大流だが、後ろ2組にピンクボロが4人と強さが際立った。

競技の結果、**296ストロークまでの16人**に日本アマチュアゴルフ選手権競技への出場権が与えられた。また、**302ストロークまでの30人**に、中部オープンゴルフ選手権競技への出場権が与えられた。



日本アマチュアゴルフ選手権競技の出場権を得た選手たち

★競技詳報★

首位の**桂川選手**が通算7アンダー、2位の**今野選手**が通算3アンダー、3位の**杉浦悠太選手（芦原GC・福井工大福井高2年）**が通算2アンダーで最終組がスタートしたのは、予定より30分ほど遅れた9時40分だった。

1番H（510Y・パー5）、桂川選手の第1打は4W（バフィー）でフェアウェイを確実にキープし、第2打をピンの上1.5メートルにつけた。**今野選手**も左ラフからグリーンオーバーするもアプローチで2メートルに、**杉浦選手**はフェアウェイからグリーン左にオン。そして、**今野、杉浦選手**がバーディを奪取した後、**桂川選手**は落ち着いて沈めてイーグル。3人ともに好スタートを切った。続く**2番H（225Y、パー3）**、桂川選手はもう少しでホールインワンのナイスショットでピン上80センチ

チ。今野選手と杉浦選手はともに左のバンカーの中、しかも近いところで、今野選手は一旦ボールをピックアップ。杉浦選手は先にバンカーアウトしたがショートしボギーで2アンダーに、そして今野選手はあろうことかトップして反対側のバンカーにボールが突き刺さる悲運、ここをダブルボギーとし2アンダーに後退。桂川選手は楽々バーディで10アンダーに伸ばし、一気に差は8打に広がった。

3番H、4番Hと着実にバーを重ねる桂川選手に隙はなく、このまま順調に勝利するのかわかれた。ところが、ゴルフは何が起きるのかわからない。**7番H (560Y、パー5)**で、桂川選手は第1打をユーティリティで打ち、第3打でオンする作戦に。ところが「風がフォローだと思った」54度での第3打はグリーンに届かず斜面を下って池にボチャリ、ダブルボギーにしてしまう。片や2オンに成功していた今野選手は絶好のイーグルチャンスは外したもののバーディで、**2人の差は5打に縮んだ。**

さらに**9番H (429Y、パー4)**、桂川選手は第2打をグリーンオーバー、アプローチも飛びすぎて反対側へ行くミスショット、またはダブルボギーで**通算6アンダー**まで落としたのだ。今野選手がここをバーディとして**4アンダー**、ついに**2打差**。そして、もう一人、前の組の**大澤和也選手**も1アンダーからのスタートで4アンダーまで伸ばしていて、日大の先輩たちが後輩を捉えようとしていた。



後半に入ると、**大澤選手**が10番H、11番Hを連続バーディとし、この時点で、桂川選手に追いついた。さすが日本アマチャンピオン、と皆の注目を集める大澤選手は、14番Hでピン50センチにつけバーディ、**7アンダー**とする。**桂川選手**は12番Hでバーディ奪取し7アンダーと並ぶと、14番Hで10メートルのバーディパットを鮮やかに決め、**8アンダー**で抜け出した。大澤選手と1打差として、そのまま初優勝を決めた。



<インタビュー> 敬称略

「自分のプレーに集中することが目標だった。」

桂川 有人 (美濃白川GC・日大2年) 280=69、71、69、71 (37、34)



2番Hを終えて2位と8打差をつけ、独走かと思われた状況から、2つのダブルボギーで一気に2打差まで縮まったことについて、桂川選手は、「7番はティーショットに立った時、正面の木まで行かない方がいいと思いユーティリティにしました。2打目も完璧なショットだと思ったら短かった。風がフォローじゃなかった。9番も風がわからなくて8番アイアンで打ったらキャリアでグリーンオーバーで

した。風を読み違えたけど、どちらもショットは良かった。それに、今日は自分のプレーに集中することを目標にしている、イーブンか1アンダーなら良いと思ってスタートしたので、後半12番でバーディが取れてイーブンになり目標をクリア。あとはボギーを打たないようにとプレーしたら14番で10メートルが入ってラッキーでした」と振り返った。

大澤選手と並んだことを知ったのは、競技委員が話しているのが聞こえたから。それでも、プレッシャーに感じることなく自分のプレーに徹することができるのが桂川選手の強さだろう。日大の10人のレギュラーに1年生から入り、昨年は朝日杯と文部大臣杯で優勝を飾った。同級生の木村太一選手は関東でMVPを取ったばかりだし、清水選手は昨年の日本学生優勝者だ。桂川選手は「これからは体づくりが課題。今年は日本学生を取りたい」と抱負を語った。



物心ついた時にはやっていたというゴルフ。教えたのは祖父の征男さん(74歳)だ。高校進学の時、通信制のルネサンス豊田高を選び、フィリピンのマニラサウスウッドゴルフ&カントリークラブでゴルフ中心の生活をした。進路を考えた時、向こうでお世話になった方にも「長い目で考えて、大学に行くのもいい」と言われていた矢先に、日大から声がかかった。「すごく嬉しかったし、今も楽しい」と桂川選手。征男さんは4日間、送り迎えをし、付いて歩いて見守った。孫の優勝は何よりのプレゼントになった。

◆日大からは5人が日本アマヘ



大澤和也（グリーンヒル瑞浪GC・4年） 282=76、67、72、67（33、34）2位

「今日は気合いでした。後半に有人に追いついたことがわかって、頑張ろうと思い直したんだけど、16、17番でボギー、仕方ないですね。でも、最後の18番で8メートルのスライスライン、マウンド越えで難しいのが入ってバーディ取れたのが良かった」。

今野大喜（恵那峡GC・4年） 285=74、69、70、72（35、37）3位

「バットが入らない4日間でした。ずっと、そればかり言ってますよね。練習して、日本あままでに戻しておきたいです」。世界学生個人優勝して乗り込んできた岐阜県だったが、思うようにはいかなかった。「次に中部に来るのは中部オープン。その時は期待して！」今野選手は、日大ゴルフ部キャプテンでもある。

木村太一（CRC三重白山・2年） 292=73、75、72、72（36、36）6位

「3日間ショットが悪く、最後の今日が一番マシになりました。ラフが長くて苦戦しました」

永井直樹（緑ヶ丘CC・4年） 294=68、75、73、78（37、41）9位

「今日は3バットが4回とぐちゃぐちゃのゴルフでした。初日の貯金が効いて、日本アマに行けます」。

◆中部学院大からは6人が日本アマへ



大内智文（中部学連・4年） 291=69、77、69、76（36、40）5位

「後半に緊張が強すぎて、バットが入らなくなった。一昨年に行った日本アマ、リベンジしてきます」。

金子優将（富士C可児C・3年） 294=75、71、72、76（39、37）9位

「プレッシャーに負けそうになったけど耐えました」。日本アマは初出場。

加藤陽輝（TOSHIN Central・2年） 294=74、73、71、76（37、39）9位

「まだ実感がないですけど、初めての日本アマに行けて嬉しい」。

三島泰哉（中部学連・3年） 296=74、73、76、73（36、37）15位

「カットラインぎりぎりからスタートしたけど、今日はいいプレーができました」。日本アマは初出場。

岩淵隆作（中部学連・4年） 296=73、74、73、76（38、38）15位

「今日はカットラインを気にしすぎました。日本アマまでに調整します」。日本アマは5回目の出場。

中山絹也（中部学連・2年） 296=70、72、77、77（39、38）15位

「ホントに、取れてよかった。それだけ」

◆CGA強化指定選手（正選手）は3人とも出場権



杉浦悠太（戸原GC・福井工大福井高2年） 289=71、73、70、75（39、36）4位

湯原光（ぎふ美濃GC・西成東部中3年）295=73、74、73、75（39、36）14位

金子堅太（CRC白山ヴィレージ・ルネサンス豊田高1年）296=74、70、75、77（40、37）15位

◆19位からスタートして、日本アマ出場権



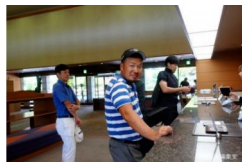
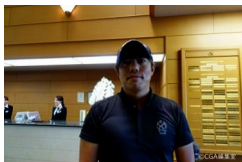
若原亮太（岐阜県連・大阪学院大2年）
292=75、75、72、70（34、36）6位
「今日は2バーディノーボギーでした。いいゴルフができたと思う」（写真左）、織田信亮（杉ノ木台GC・福井工大1年）293=74、72、76、71（37、34）8位「上がりの2ホールでバーディが続いたのがよかった」（写真右）

◆大人組は12人が4日間完走

大学生以下の年代が73人と86%を占めた決勝ラウンド。ミッド・シニア世代はわずか12人が4日間を戦った。「スコアは聞かないで〜」「足がパンパンになって〜」と嘆きつつも「完走できた、体力もった」「楽しかった」と充実感が上回っていた様子。みなさん、お疲れ様でした。

決勝ラウンド進出の選手／

上田崇宏（関ヶ原GC・40歳）、笠松孝太郎（グランディ浜名湖GC・26歳）、藤井靖啓（GC大樹旭・38歳）、谷光治（ナガシマCC・45歳）、阪野智久（ライオンズGC・46歳）、大橋元（中仙道GC・40歳）、若山裕一（小松CC・50歳）、土岐明彦（富士C可児C・55歳）、鈴木優太（ライオンズGC・30歳）、榎原吉規（知多CC・38歳）、兼松利率（グリーンヒル瑞浪GC・45歳）、山中敏靖（富山県連）



◆福井工大と付属福井高からは16人が参加。



高校と大学合わせて、16人が参加した今大会。予選を通過したのは13人、日本アマ出場権を得たのは、3人だった。

»List »競技情報Top

